

2024-

柏原市森林循環 ガイドライン(案)



目次

1. はじめに
2. ガイドラインの基本情報
- 森林整備編** ※R4年度調査報告書もとに作成
3. 柏原市の森林の現状
4. 望ましい森林像および目標
5. 森林保全・活用に関する整備方針

つながり編 ※プラットフォームで議論

6. プラットホームの目的
7. 大切にしたいこと
8. 推進体制について

1. はじめに

森林は、私たちが暮らしていくうえで必要な恵みを与えてくれています。里山の森林には、適度な手入れが必要ですが、近年、手入れがなされず、荒れた状態の森林が多く見受けられます。

一方、地球温暖化が進み、各地で、異常気象による災害が多発しております。今後、持続可能な社会を構築していくためにも、活力ある森林の造成や森林資源の循環的利用が求められています。

このような社会情勢の中で、森林環境譲与税を効果的・効率的に活用し、市域における森林整備活動や資源循環を進めていくための指針として本ガイドラインを策定するものです。

本ガイドラインは①, ②での活用を想定しています。

①市が森林環境譲与税事業及び森林整備を進める指針となるもの

- ・ 行政担当者の引き継ぎ資料としても活用し、長期的に継続し、森林整備が進められる指針とします。

②行政計画ではなく、市民が森林保全活動をする指針となるもの

- ・ 「情報を共有」し、「新たな活動を誘発」につながる指針とします。

2. ガイドラインの基本情報①

●対象

行政職員および森林に関わる全ての市民・事業者を対象としています。

●対象期間

概ね10年程度を想定し、当面3～5年間の取り組みイメージを記載します。
プラットフォーム等の場で共有し、随時更新を行っていくものとしします。

2. ガイドラインの基本情報②

森林整備編

- 柏原市の森林の変遷や現状を踏まえて、エリアや状態別の方針を示したものです。
- こちらの情報を基本に、現状にあわせて整備を進めることが望まれます。

つながり編

- 柏原市の森林に関わる人達がつながり、情報を共有したり新たな取り組みを誘発していくために大切にしたいことを示しています。
- 今後、立ち上げるプラットフォームで議論を行い、まとめていきます。

森林整備編

3. 柏原市の森林の現状
4. 望ましい森林像および目標
5. 森林保全・活用に関する指針



3. 柏原市の森林の現状

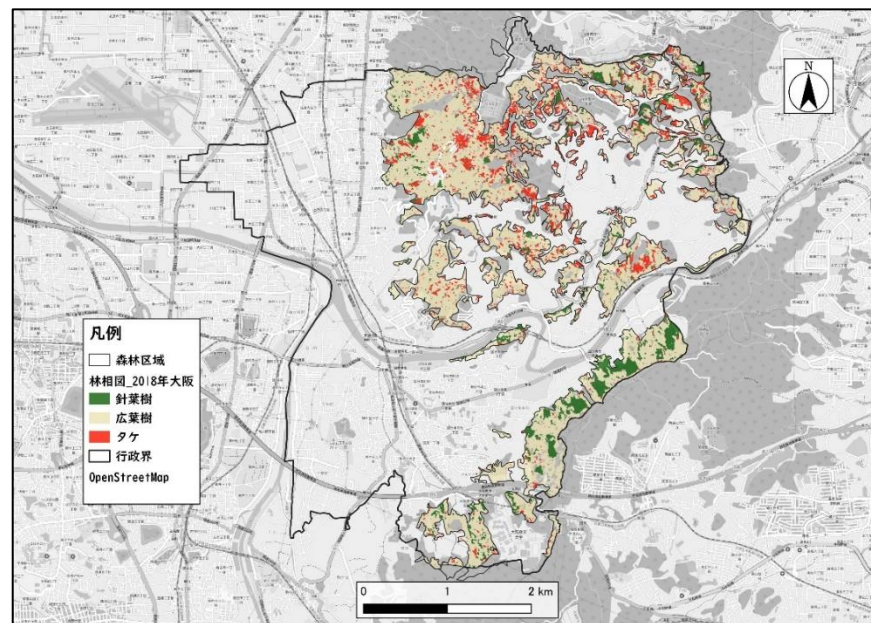
● 柏原市の森林の特徴

◆ 森林資源

- 柏原市の森林は、市域東部の山地に位置し、面積は、市域面積の28%に当たる約717haあります。
- 所有形態別では、そのほとんどは民有林で、その85%が、雑木林や竹林です。
- スギ・ヒノキを主体とする人工林は森林全体の約15%程で、場所も散在しており、林業経営のための森林は、見受けられません。

◆ 森林の状態

- 近年は、利用されることもなく、常緑広葉林化が進むとともに、松くい虫被害やナラ枯れの蔓延、ササやタケ、クズの侵入が進み、林況は著しく悪化しています。

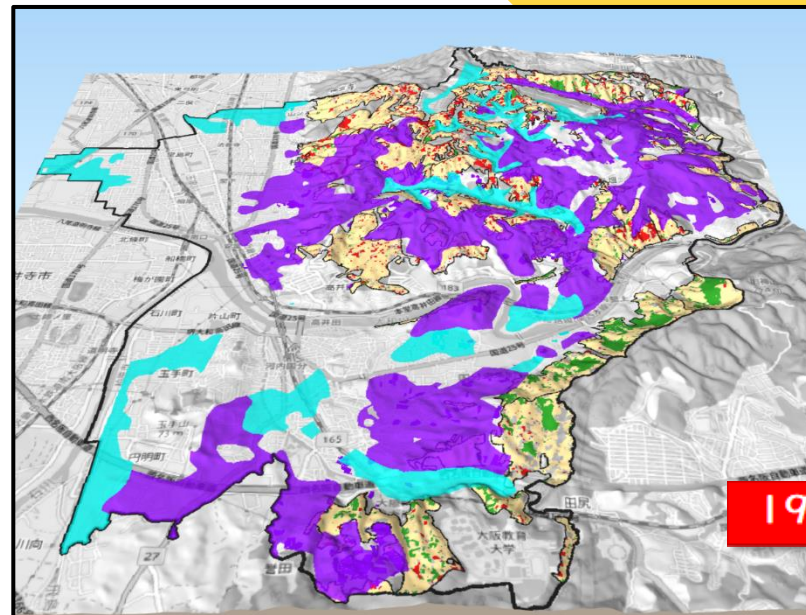


3. 柏原市の森林の現状(2)

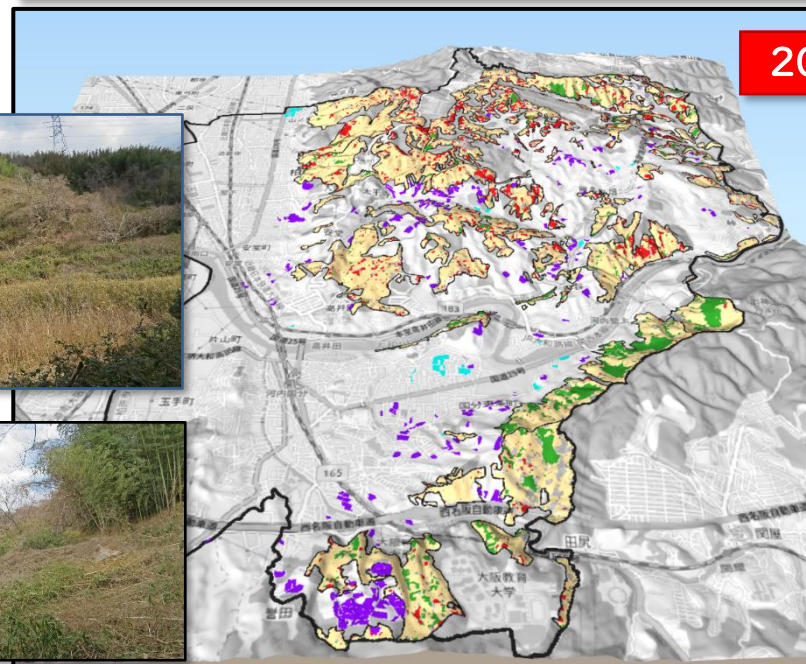
●柏原市の森林の特徴(2)

◆ぶどう栽培

- 古くからぶどう栽培が盛んで、ぶどう畑が山麓部から山間部に広く分布しています。
- しかしながら、近年耕作放棄地が増え、その跡地がタケやササ、クズに覆われ、連接する森林に侵入している状況にあります。



1981



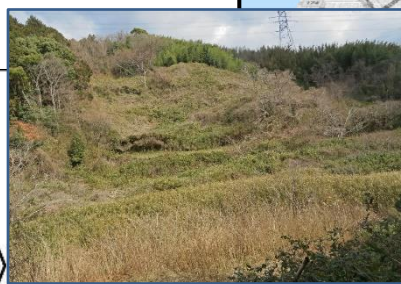
2020

凡例

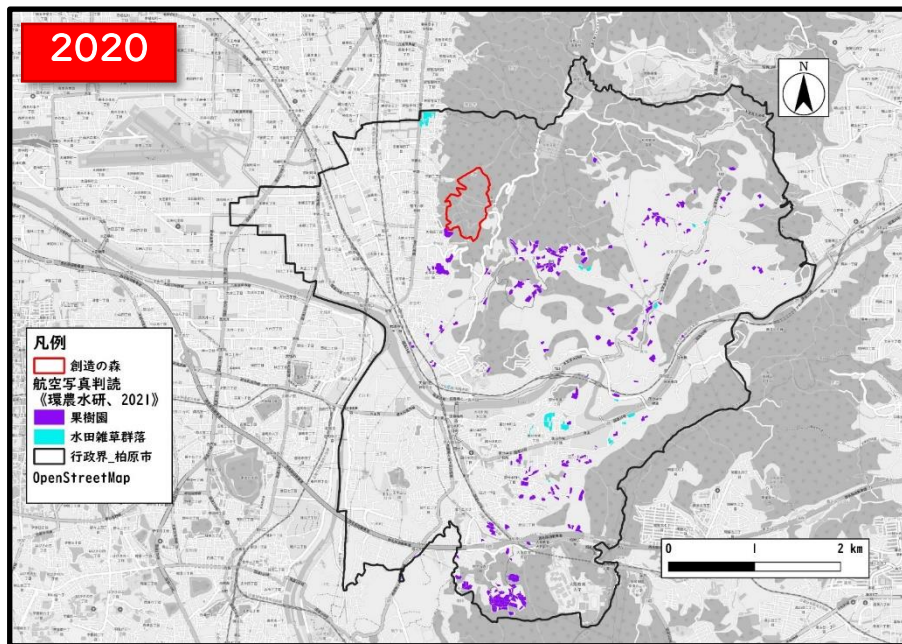
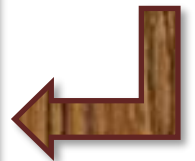
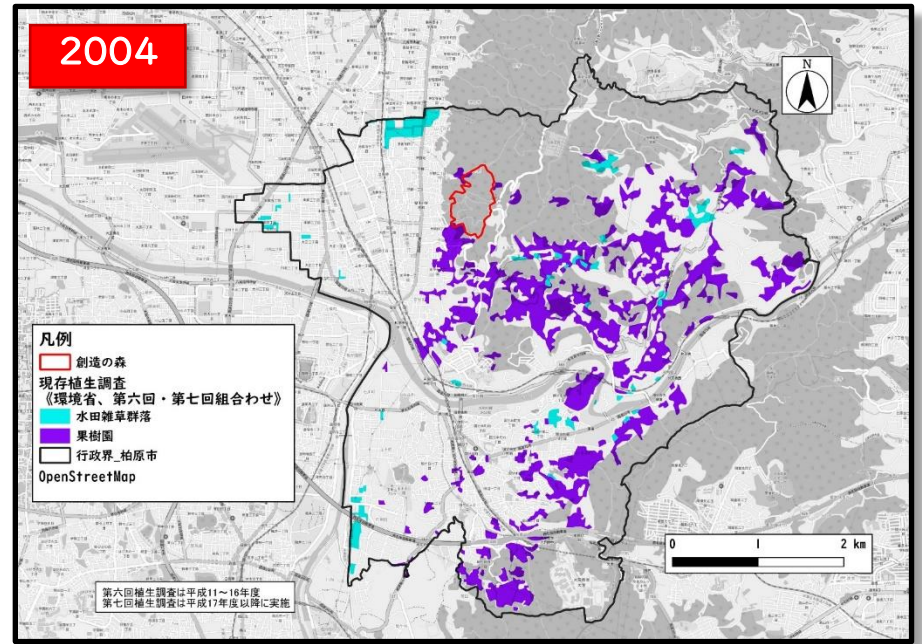
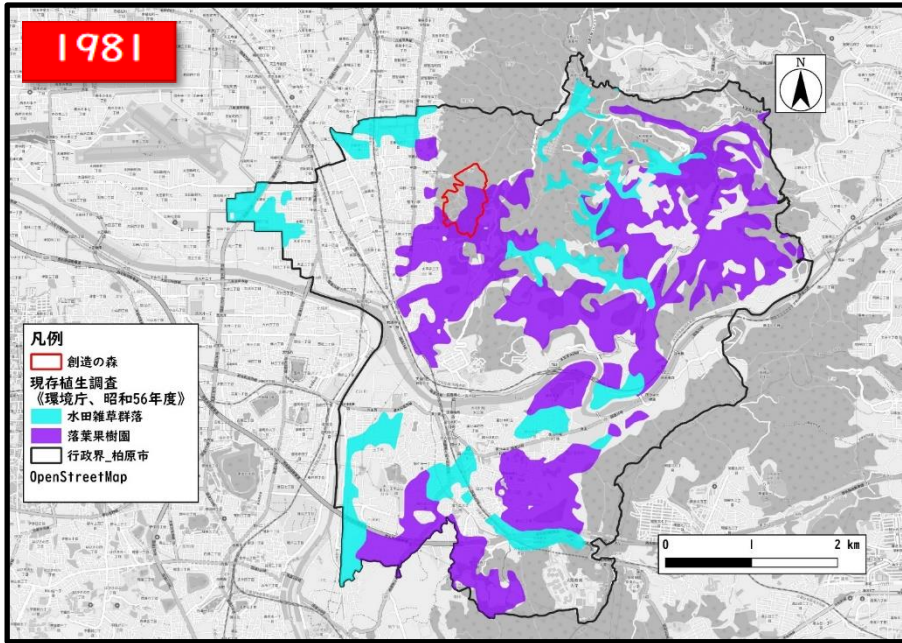
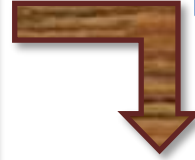
森林区域
 林相図_2018_大阪府
 針葉樹
 広葉樹
 タケ
 行政界_柏原市
 OpenStreetMap

凡例

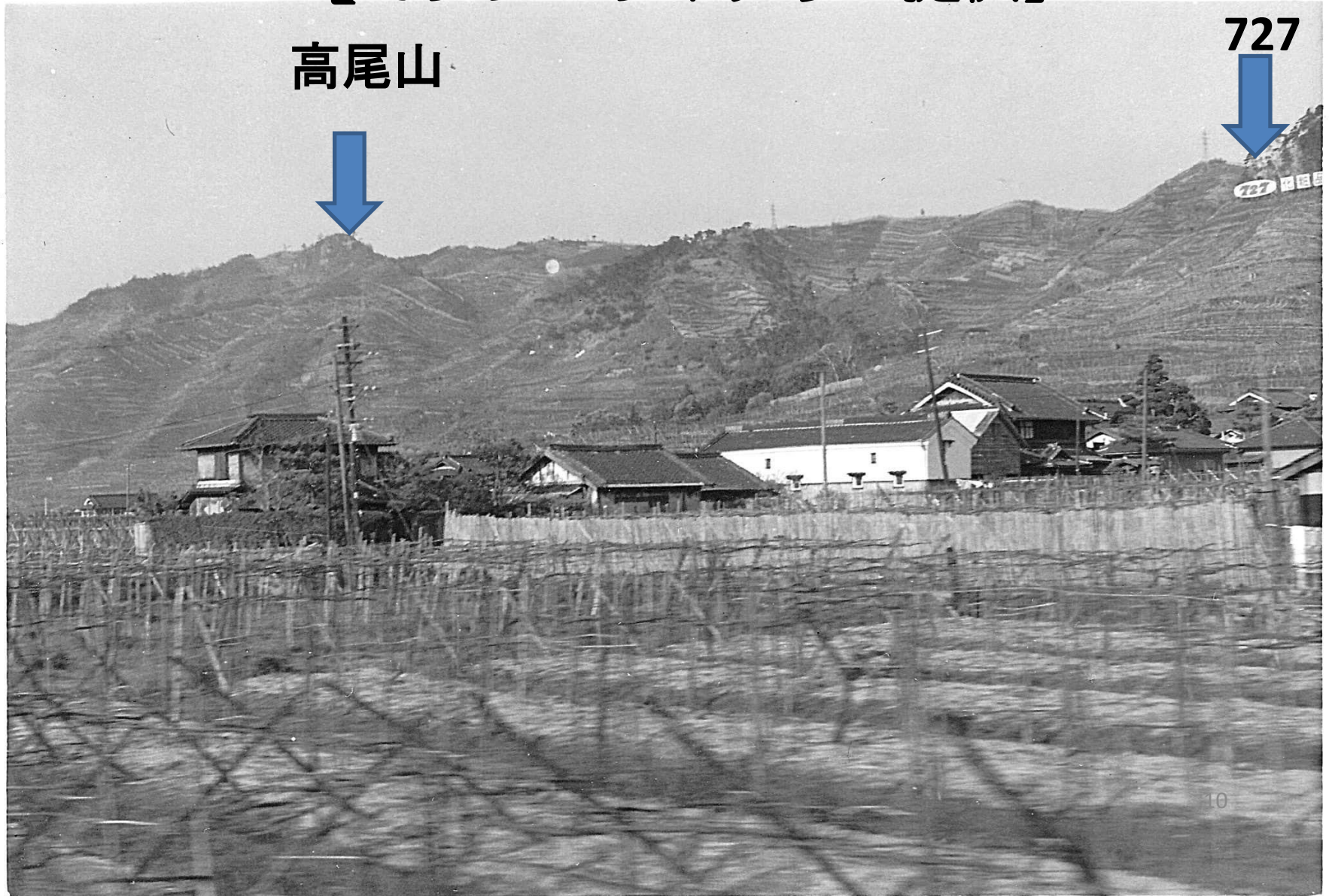
創造の森
 現存植生調査
 《環境庁、昭和56年度》
 水田雑草群落
 落葉果樹園
 行政界_柏原市
 OpenStreetMap



ぶどう畑の変遷 紫色の箇所がぶどう畑



昔（昭和前期）のぶどう畑の様子
山の上までブドウ畑が広がっています
【カタシモワイナリー提供】



最近のぶどう畑の様子

多くが、竹林や森林、ササ原に替わっています。

【2022年4月撮影】

高尾山



727



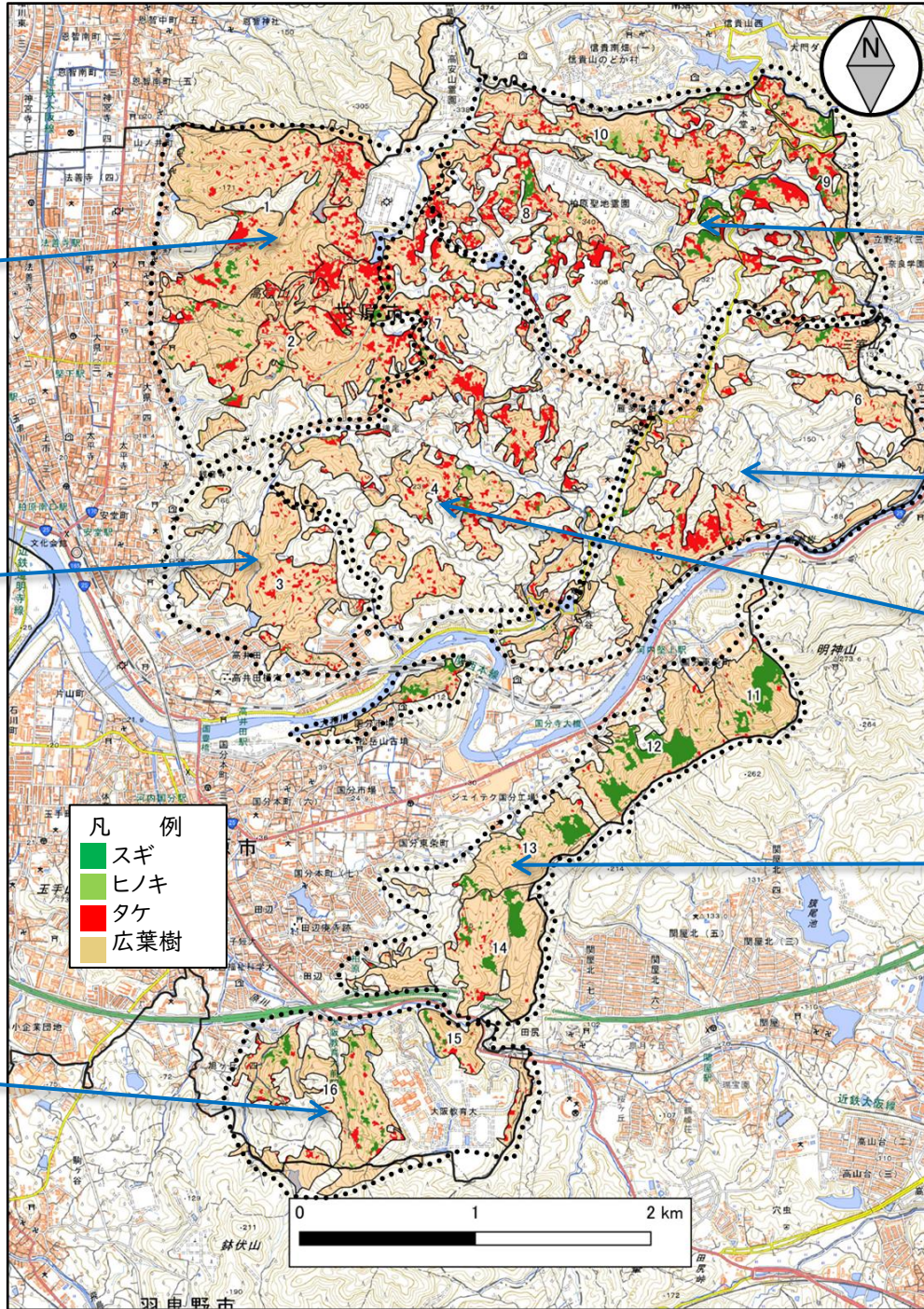
地区区分図

平野・大泉地区

(地区区分図)

高井田地区

旭ヶ丘地区



堅上北地区

堅上南東地区

堅上西地区

国分地区

地区別に見た森林の現況

市域の山林を自然的、社会的条件からセブブロックに分け、ブロック毎に森林等の状況や特徴などをまとめると次のとおりである

地区名	林班	大字	森林面積 (ha)	社会的環境	人工林の状況		竹林の状況		森林被害の状況	森林のレクリエーション利用の状況
					面積 ha (率%)	概況	面積 ha (率%)	概況		
平野・大県	1 2	平野 大県	143	高尾山の西斜面に位置し、市街地から見渡すことのできるシンボルマーク的な山塊。高尾山創造の森など見どころも多く、都市住民の入り込みも多い。	6.41 (4.4)	創造の森の区域を中心に小規模に散在している。	16.78 (11.7)	関電変電所の周辺や創造の森の東側及び南側に放置された状況で広がっている。	特に顕著な被害状況は見受けられない。	創造の森を中心に遊歩道が整備され、眺望が優れたポイントも多い。JR や私鉄の鉄道駅から近く、季節を問わず多くのハイカーに利用されている。
高井田	3	高井田	42	国指定史跡など見どころも多く、また社会教育施設や住宅地に近接しており、市民にとって身近な森林が広がる。	0.73 (1.7)	ほとんど無し。	0.79 (1.8)	ほとんど無し。	全般的にナラ枯れにより、倒伏の危険のある枯損木が見受けられる。	高井田横穴公園裏の住宅地から夕陽の丘観光農場に至るハイキングコースがあり、利用は比較的少ないが、JR高井田駅からのアプローチも良く、眺望も楽しめ、整備によってはより多くの市民の利用が見込まれる。
堅上西	4 7	雁多尾畑 青谷	112	竜田古道を中心に史跡、神社仏閣に恵まれている。また棚田やブドウ畑が多く、独特な景観を醸し出しているが、廃ブドウ園や休耕田を中心に景観の悪化が危惧される。	7.51 (6.7)	比較的少ない。	22.07 (19.0)	竜田古道（上徳谷）沿い、特に堅上中学校周辺に放置された状況で広がっている。	特に顕著な被害状況は見受けられない。	里山の風景を醸し出している上徳谷は竜田古道のルート上にあり、広くハイキング等に利用されているが、竹林の拡大やブドウ畑跡地、休耕田の藪化など景観上問題となる箇所も見受けられる。
堅上南東	5 6	雁多尾畑 青谷 峠	84	大和川に沿って急峻な地形が続き、中央部には亀の瀬地すべり対策地域が広がる。	6.58 (7.8)	比較的少ない。	16.78 (19.9)	地すべり対策地域周辺で拡大が目立っている。	特に顕著な被害状況は見受けられない。	雁多尾畑集落から里山公園、亀の瀬地すべり対策地域、峠集落そして三郷町の竜田大社に至る竜田古道は眺望もよく、多くのハイカーが訪れているが、上記と同様景観上問題となる箇所が多々見受けられる。
堅上北	8 9 10	雁多尾畑 本堂	145	樹林地とブドウ畑等の農地がモザイク状に分布するが、比較的緩やかな地形の箇所は資材置き場、残土処分地等の森林以外の土地利用圧力が高い。	25.19 (17.4)	柏原聖地霊園の周囲にある程度まとまって分布。	29.49 (20.0)	車道周辺を中心として拡大が顕著である。	全般的にナラ枯れにより、倒伏の危険のある枯損木が見受けられる。	主要鉄道駅から離れており、ハイカー等の利用は少ないが、奈良県側の農業公園（信貴山のどか村）に隣接しているため、マイカーでの入り込みは多い。
国分	11 12 13 14	国分東条 国分 田辺	115	奈良県との府県境部分にあり、比較的急傾斜の地形が広がっている。田辺地区はブドウ畑も多い。	29.12 (25.3)	最も多く分布する区域。概して傾斜が急な林分が多い。	4.36 (3.8)	比較的小規模なものが散在する。	14 林班の人工林の一部が台風により倒伏するなど被害状況にある。ナラ枯れ倒伏木も多く見られる。	奈良県（香芝市）との府県境尾根伝いに明神山（王寺町）に至るルートがあるが、市民の利用は比較的少ない。大和川や雁多尾畑方面の眺望に優れており、ハイキングルートとしての魅力度は高い。
旭ヶ丘	15 16	旭ヶ丘	44	東側は大阪教育大学が立地し、大学の敷地を森林が取り囲んでいる。西側は田辺病院の上流域に森林が広がる。	2.95 (6.7)	病院施設の上流に広がるが、管理は比較的行き届いていない。	0.29 (0.7)	ほとんど無し。	特に顕著な被害状況は見受けられない。	西側の田辺病院から谷筋に寺山（羽曳野市）に至るルートがあるが、登山道としての管理は行き届いておらず、利用者も少ない。しかしルート途中の尾根部で大阪平野を広く眺望できるポイントがあり、ハイキングルートとしての魅力度は高い。

3. 柏原市の森林の現状

●柏原市の森林が抱える課題

森林の状態 と関わりの創 出の必要性	<ul style="list-style-type: none">森林とぶどう畑が混在しており、耕作放棄地が増加し、そこが雑木林や竹林、笹原となってきています。森林は、概して放置され、隣接する耕作放棄地の植生の変化もあいまって、荒廃化や、竹や笹、葛などの侵入拡大が進んでいます。また、放置されていることも影響して、近年、イノシシなどの獣害や森林病虫害による被害もたくさん見受けられます。それらの結果、下層植生が乏しく、生物相が貧弱で、景観も荒れた感じの森林が増えています。このような森を適度に手を入れて、元気な森に再生していくことが求められています。柏原市内の森林は、ほとんどが個人の所有です。森林は、多面的な機能を発揮していますが、それが経済的価値と結びつきにくいことから、放置されているのが現状です。また、市民にとっても、個人の森林に入ることできないので、今後、森林に関心のある市民や企業が、所有者と連携しながら、森林やそこに隣接するブドウ畑などに適度に管理の手を入れていける仕組みづくりを進めていく必要があります。
資源の活用と 活用に向けた 基盤づくり	<ul style="list-style-type: none">市内にスギやヒノキなどの人工林は少なく、林業活動は殆ど行われていませんが、今後、持続可能な社会に向けて、スギ・ヒノキのみならず、広葉樹林や竹も含めて、資源活用を図り、森林資源と地域経済が循環する取り組みを行っていく必要があります。そのためには、森林の管理や伐採した木材等を搬出しやすいよう作業用の道作りを進めたり、森林資源の多面的な利用の取り組みや、森林資源を循環させる仕組みづくりが必要となります。
空間の活用へ の期待	<p>市民に「森林や山間部でどのような活動をしたいと思うか」意向調査をしたところ、 ①心身の気分転換・森林浴が73%、②ハイキング・登山が44%、③自然観察・動植物観察が42% の人が回答。このような場や機会をつくっていくことが求められています。</p>

3. 柏原市の森林の現状

●柏原市の森林が抱える課題

森林所有者と 多様な関わり との交流機会 の創出

- 森林所有者に「将来の森林管理の担い手について」意向調査をしたところ、①「子どもがいるが維持管理は期待できない」が51%、②「当分の間は自分がするがその後はわからない」(31%)、③「誰もいない」(23%)と、所有者自身の関わりへの希薄化も大きな課題となっています。
- 同じ調査で、所有森林を維持するために望まれる支援については、「森林作業ボランティアのあっせん」と、「隣との境界確定」がともに36%と高く、これに、「森林整備の資金補助」(31%)、「作業用の道の整備」(28%)、「所有森林の場所の情報提供」(21%)が続く一方、「どんな支援があっても維持管理できない」と答えた人が31%もありました。
- このニーズに応えて、森林所有者自らが、少しでも森林の管理に携わってもらえるような取組みや、森林整備に関わる人の多様化も求められます。

市民、企業の 多様な関わり の増大

- 現在、市内の森林の整備や資源循環に関わって自主的に活動している団体や企業は、10余りあります。
- 市民への森林の意向調査で、市民の80%の人は、少し歩けば森林に行ける距離に家があり、77%の人は、市内の森林に親しみを感じているものの、63%の人は、市内の森林に立ち入ることが少ないと回答されています。市民が気軽に森林に立ち入りできるよう、情報の提供やそのような場や機会の整備が求められています。
- 同じ調査で、「地球温暖化防止や森林保全のためにしたいこと」では、「地産地消に協力」(45%)、「生物多様性保全に心がけた行動」(39%)、「石油の使用を控える」(30%)が高く、森林に関しては、「木材利用等資源循環につながる取組み」(20%)、「教育や普及啓発活動に協力」(20%)、「森林整備の人材育成への協力」(18%)、「整備活動に参加」や「山での清掃活動」(各14%)、「整備を進める組織作りに協力」(12%)となっています。また、「資金面での協力」も7%ありました。
- また、森林ボランティア活動の意向については、56%が「参加したくない」ものの、「すでに活動している」が2%、「参加したい」が5%、「どちらかといえば参加したい」の回答37%ありました。
- 以上の回答から、ある程度、「森林に関わることがしたい。」と思われる方がいらっしゃるかわかり、こういった人を顕在化していく取組みが今後必要となります。



放置された竹林(手入れ前:朝)

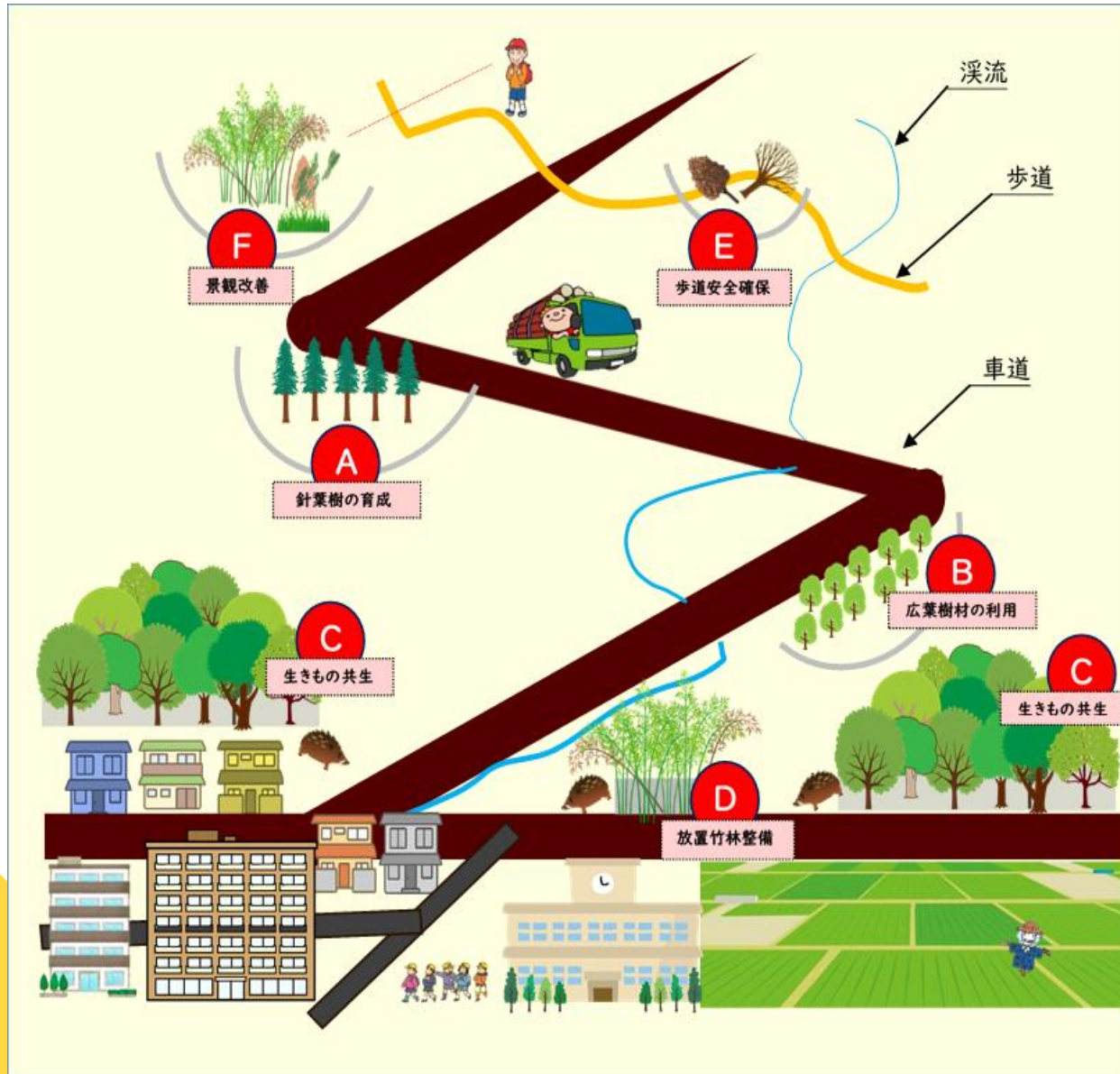


林床の竹を整理(手入れ後:夕方)

望ましい森林像および目標

4. 望ましい森林像および目標

●将来像のイメージ



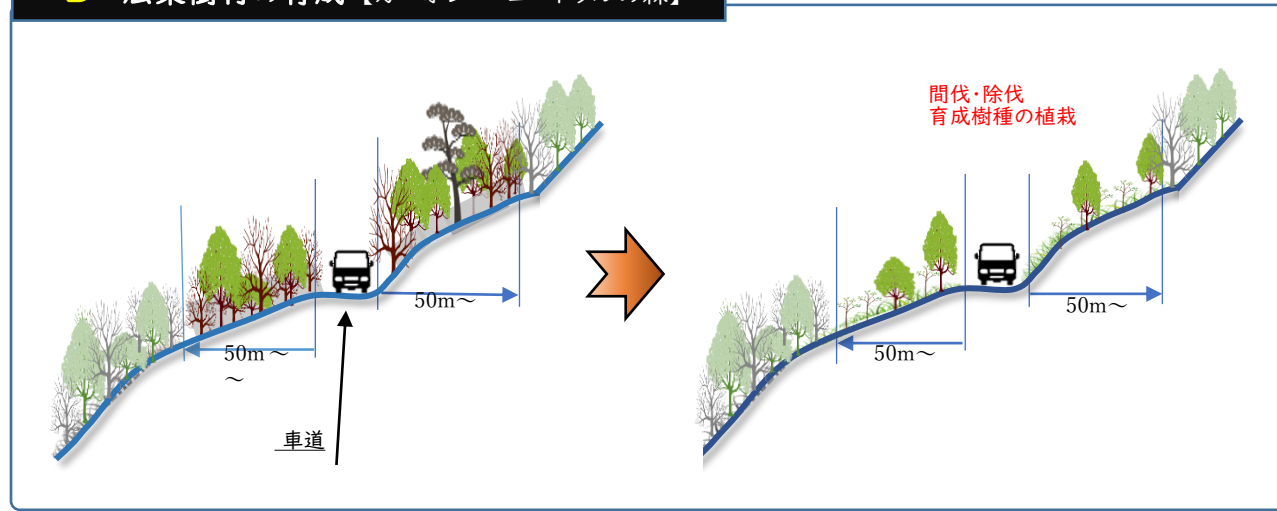
- ◎ A: スギ・ヒノキ林の間伐
【CO2固定の森】
- ◎ B: 広葉樹材の育成
【カーボン・ニュートラルの森】
- ◎ C: 生きもの共生の森づくり
【獣害対策】
- ◎ D: 放置竹林の管理
【景観対策・獣害対策】
- ◎ E: 歩道の安全確保
【ハイキング・ルート管理】
- ◎ F: 景観確保
【展望ポイントからの景観改善】

※ 森林区域外の、ブドウ園跡地や耕作放棄農地などについても、森林区域と一体的に整備・活用を図ることが望ましいエリアを含む。

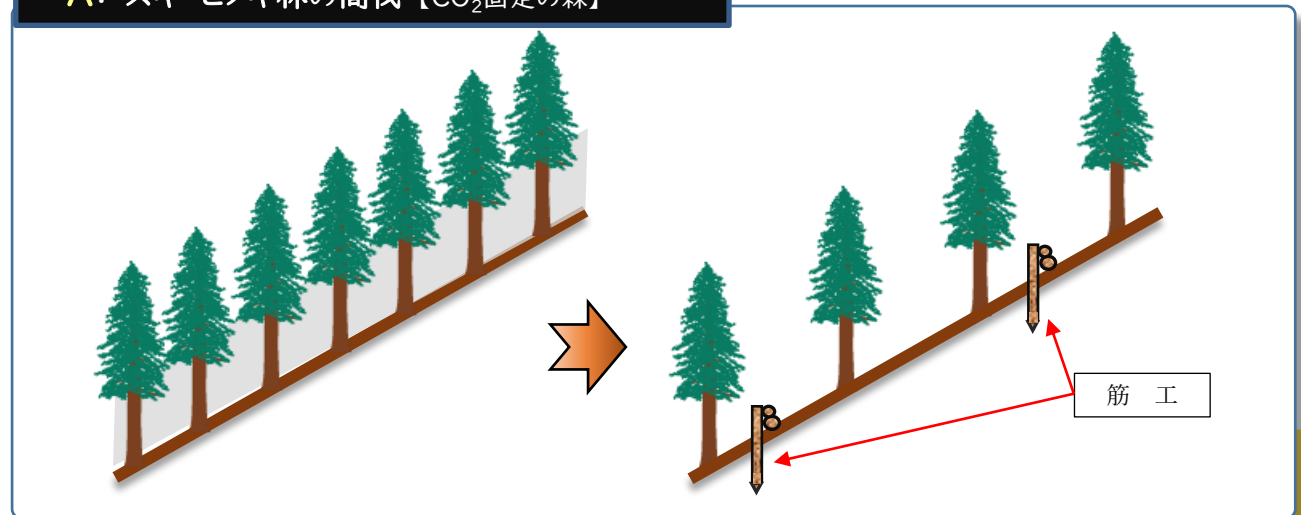
4. 望ましい森林像および目標

●将来像のイメージ

B: 広葉樹材の育成【カーボン・ニュートラルの森】

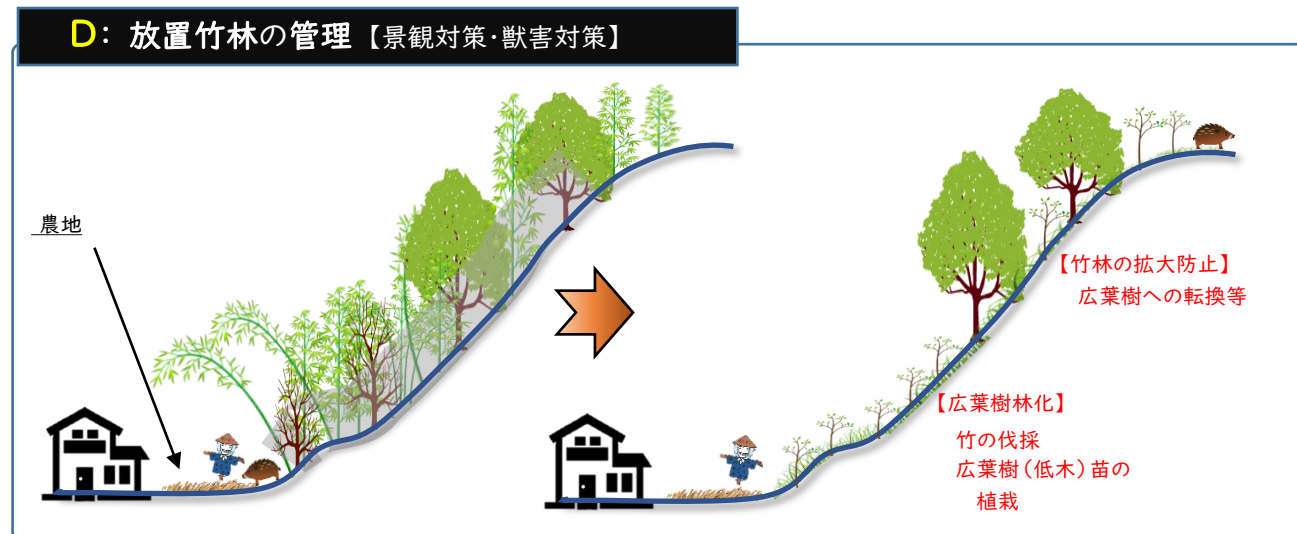
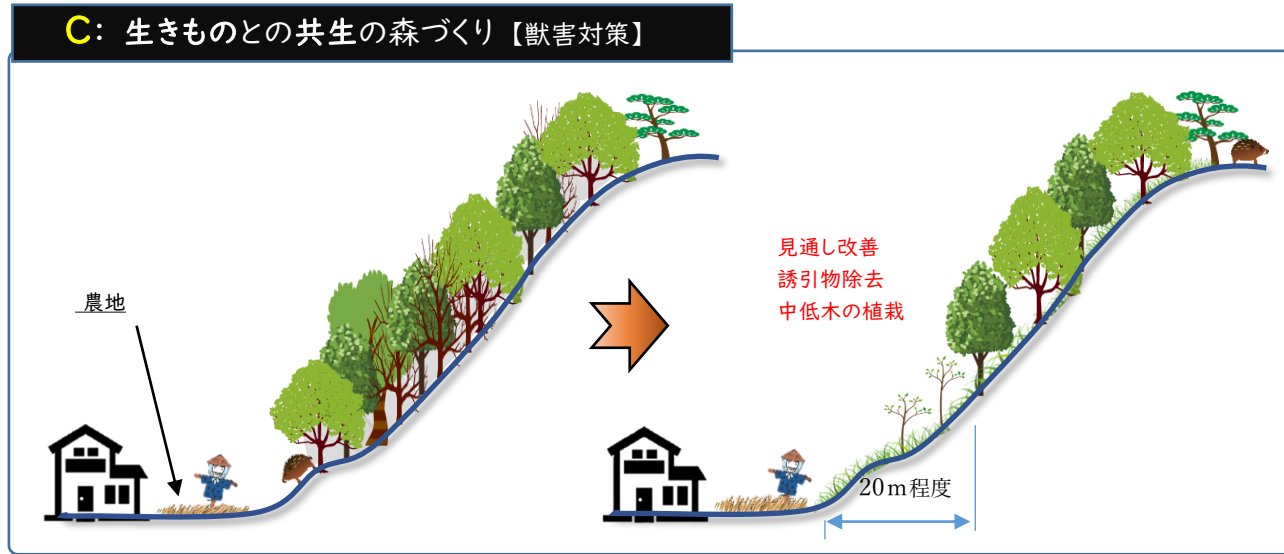


A: スギ・ヒノキ林の間伐【CO₂固定の森】



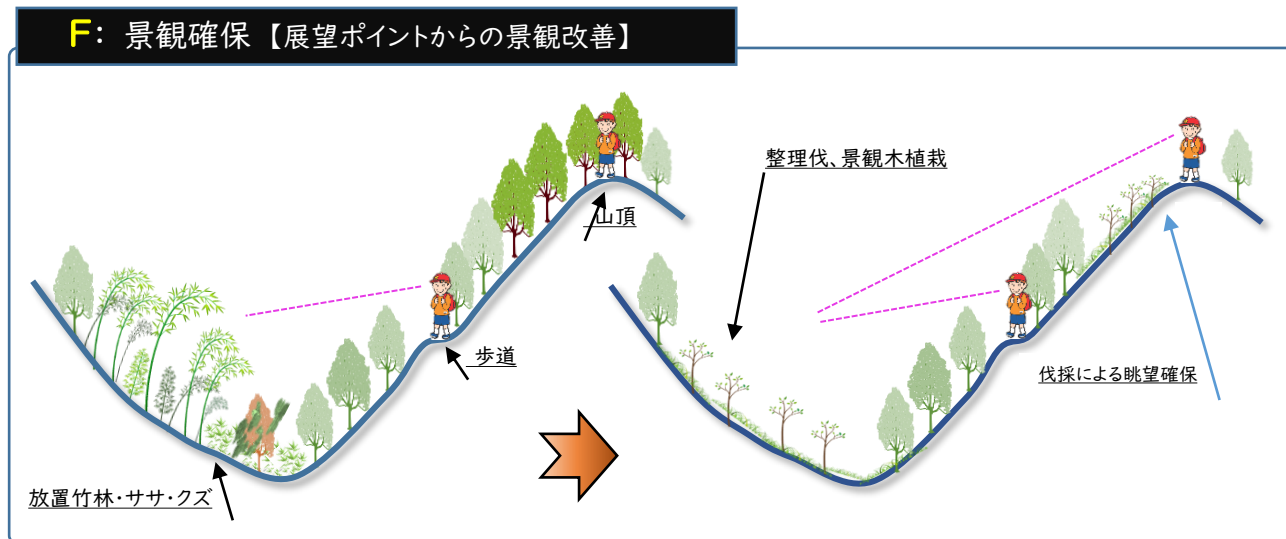
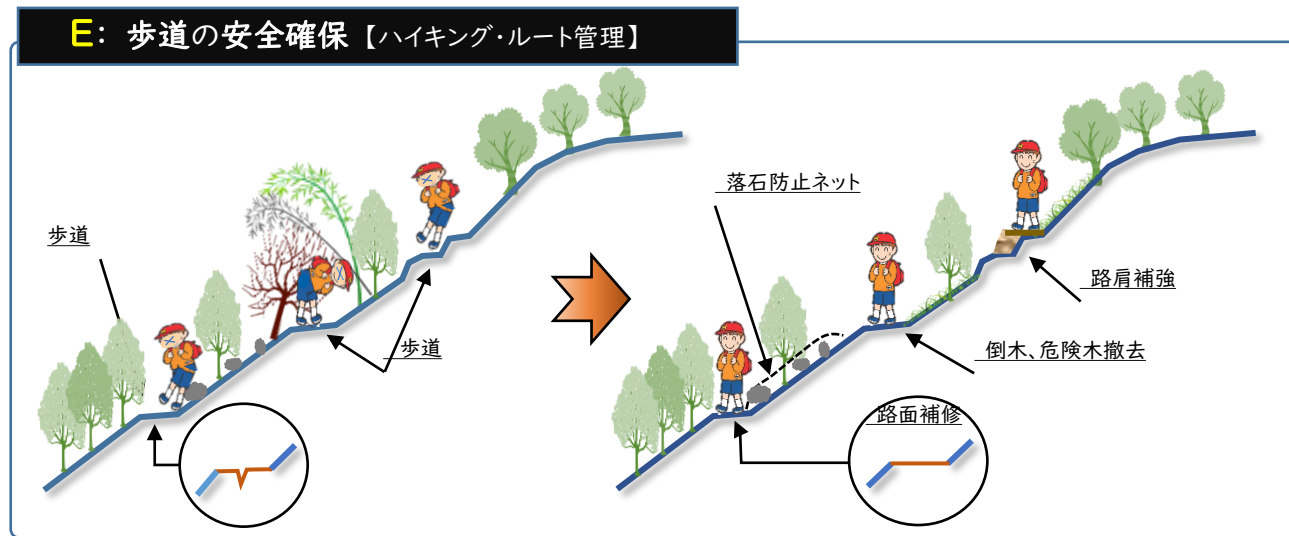
4. 望ましい森林像および目標

●将来像のイメージ



4. 望ましい森林像および目標

●将来像のイメージ





5. 森林保全・活用に関する 整備方針

5. 森林保全・活用に関する整備方針

●基本的な考え方

- 柏原の森は、古くから市民に親しまれ、市民生活と深い関わりをもってきました。
- ライフスタイルが変わり、人々と森林との関わりが少なくなってきた現在ですが、地球環境問題に対処していくためには、森林との関係づくりを再構築していく必要があります。また、2050年を目標とするカーボン・ニュートラルを目指した取組みは、みんなで進めていくことが不可欠です。
- そのため、人と人との絆、人と森林との関わりを深め、次世代の人たちが安心して快適に暮らせるよう、みんなで育て、守り、活かす里山の再生を進めます。

多様な生き物がすむ里山の再生／美しい里山の再生／災害に強い里山の再生

- 森林整備は、できるところから、少しずつでも多様性のある元気な森づくりを進めていきます。
- 大阪府の森林整備指針に基づき、「資源管理林」として、広葉樹林を適正に維持しつつ、材の搬出が可能な場所では、資源を経済的に利用することを通じて、保育・管理を行っていきます。
- また、材の搬出が可能なスギ・ヒノキ林については、「資源管理林」として、持続的に木材資源の有効活用を図り、保育、伐採、再造林という林業の経済サイクルの維持を目指します。
- 柏原市の特徴として、林地と農地が混在しているので、農業との連携にも取り組んでいきます。

5. 森林保全・活用に関する整備方針

全体

- 適度に手入れがなされ、成長が旺盛な活力ある森になっていること。
- 四季折々に彩を変える美しい森となっていること。
- 多様な生き物が育まれる生物多様性に富んだ森となっていること。
- 健康づくり、体験学習、収穫体験など市民に様々な形で利用されている森となっていること。

樹種別	目標とする林相別	森林像(方向)	森林の整備方針
広葉樹林	クヌギ・コナラ 大径木林	<ul style="list-style-type: none"> ●放置された萌芽林をできるだけ手を加えずに管理 ●明るく人が行動しやすい質の高い森づくりを目指す 	<ul style="list-style-type: none"> ●侵入するササやタケのほかヒサカキなどの常緑広葉樹を伐採。 ●株立ちの本数が多い場合は伐採し、本数を整理。 ●将来的にはヘクタール当たり100本程度の密度。 ●下層にツツジなどの低木層が生育する環境を作る。
	落葉広葉樹二次林	<ul style="list-style-type: none"> ●コナラ・クヌギのほか多様な樹種からなる景観を目指す ●林床もツツジ類や花の美しい草本 	<ul style="list-style-type: none"> ●目標樹種がある程度揃っている森を対象にする。 ●ササ・タケや常緑広葉樹を取り除く。 ●下層についてはササやイネ科植物を中心に下刈り。 ●ヘクタール当たり500本を目途に密度管理を行う。
	常緑樹林	<ul style="list-style-type: none"> ●シイ・カシ類の常緑樹林に誘導 ●落ち着いた暖かみのある空間を目指す 	<ul style="list-style-type: none"> ●頻繁に間伐や下刈りを行う必要はなく、ゆっくり遷移させることが基本。 ●林内の光環境をある程度保ち、行動しやすい森。 ●そのため、株立ちしている株の半数程度を間伐。 ●将来的にはヘクタール当たり100～200本を目指す。

5. 森林保全・活用に関する整備方針

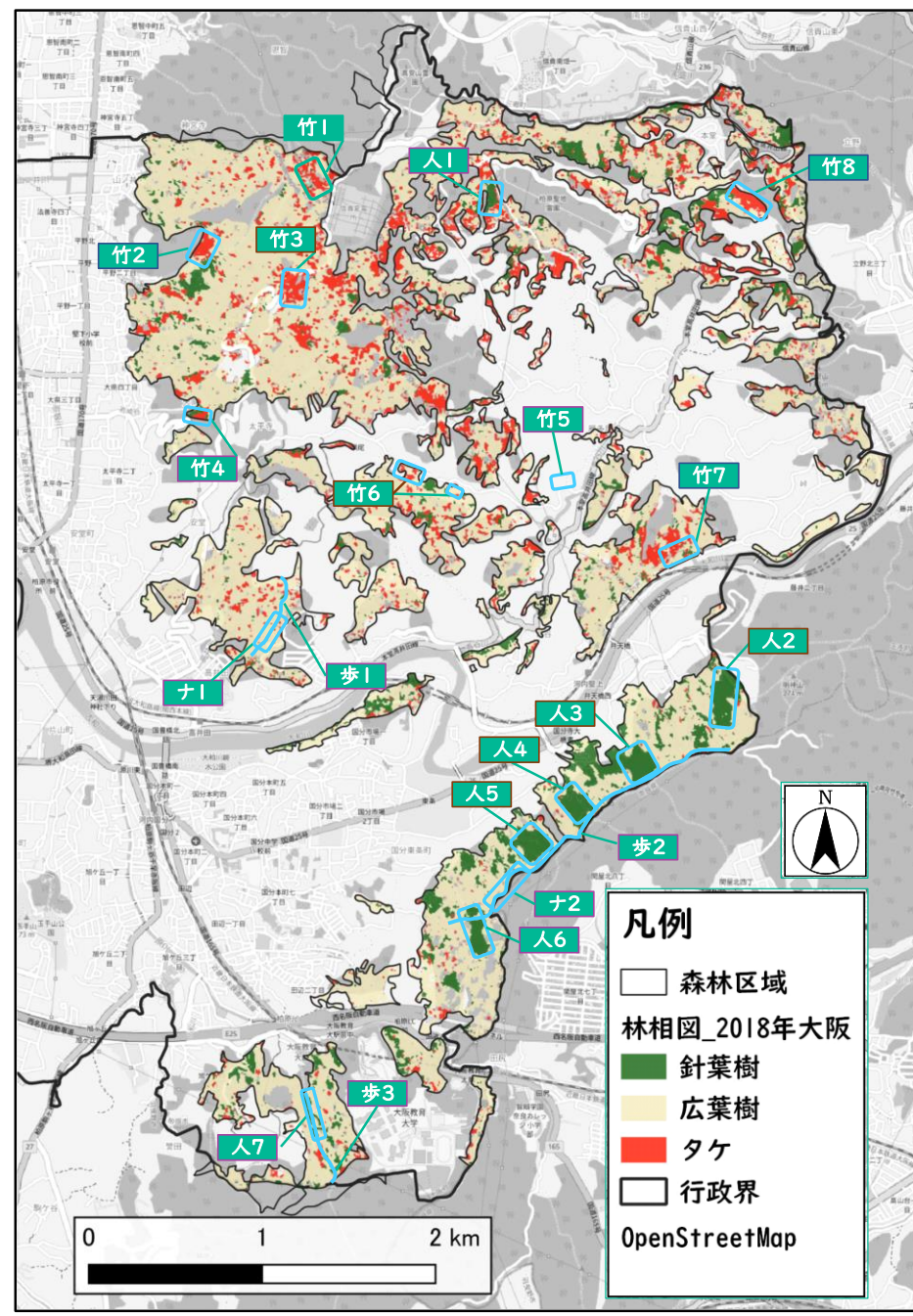
樹種別	目標とする林相別	森林像(方向)	森林の整備方針
スギ・ヒノキ人工林	大径木人工林	<ul style="list-style-type: none"> ●森林景観の重要な要素として、また明るく生物多様性に富んだ林内とするため大径木化を目指す 	<ul style="list-style-type: none"> ●経済資源と併せて生物多様性の向上を図るため、間伐をきめ細かく実施。 ●最終的にはヘクタール当たり100～200本の密度を目指す。 ●林内の下層植生は花や実が楽しめるようにする。 ●そのため多様性豊かな草本類が増えるよう選択的に管理。
	針広混交林	<ul style="list-style-type: none"> ●スギ・ヒノキと落葉広葉樹が混交する森づくりを目指す 	<ul style="list-style-type: none"> ●形質の良いスギ・ヒノキは残す。 ●その他は間伐を弱度に繰り返す。 ●落葉広葉樹も資源的価値が高くなるような樹種を選択的に残す。 ●伐期は100年以上 ●最終的には択伐施業で森の維持管理ができることを目標に。
アカマツ林	アカマツ二次林	<ul style="list-style-type: none"> ●地域の里山景観の代表するものとして、里山的な管理手法を維持して美しいマツ林を保全 	<ul style="list-style-type: none"> ●マツ枯れの蔓延や里山の管理放棄により減少 ●50年生で500本、100年生で200本の生育本数。 ●ササ・タケの刈り払い、常緑広葉樹の間伐、枯れマツの撤去、高径草本の下刈りなど
竹林	管理された竹林	<ul style="list-style-type: none"> ●密生せず地表に適度な光が入る状態(1～4㎡に1本程度)になっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ●立竹間隔が3m程度になるよう、伐採。 ●間伐対象竹は、枯死竹、斜立竹、老竹、幹割れ竹などを優先して選択。 ●伐採竹は、林内に等高線に沿って整然と整理。 ●歩道から10～20m程度の奥行を整備対象。 ●毎春、発生したタケノコを伐倒する作業が必要。

地区別の整備が望ましい森林等 (1/2)

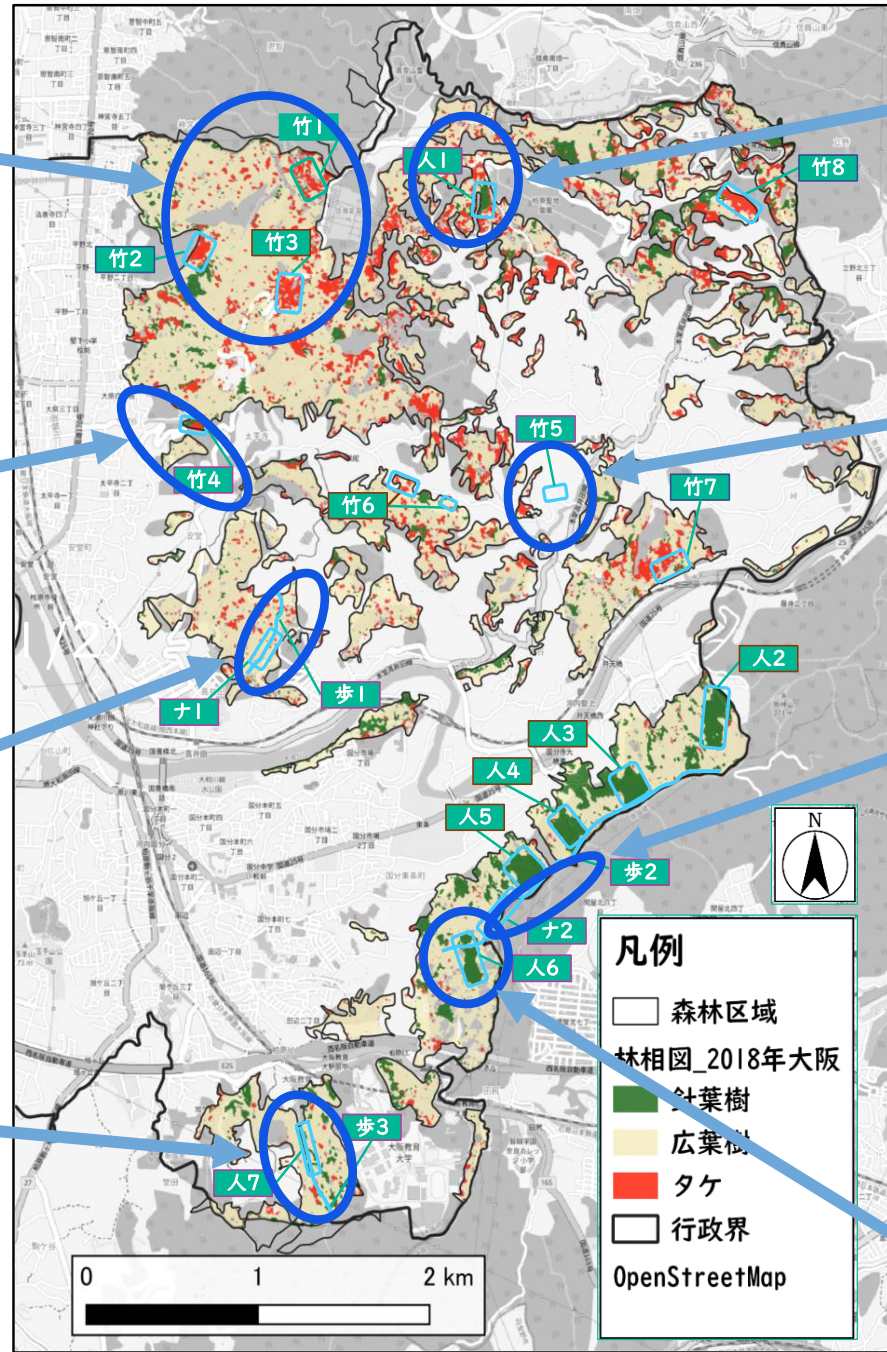
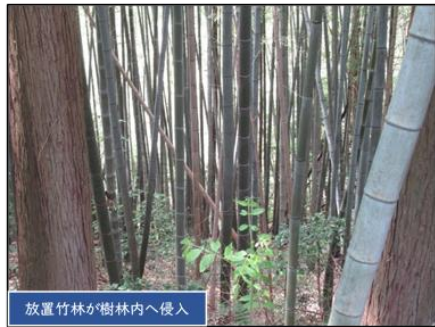
■ハイキング道の踏査や市街地、周辺の眺望地点からの目視による森林調査を行った結果、当面優先的に整備することが望ましい森林を左図(下表)のとおり絞り込んだ。

地区別の整備が望ましい森林区域一覧

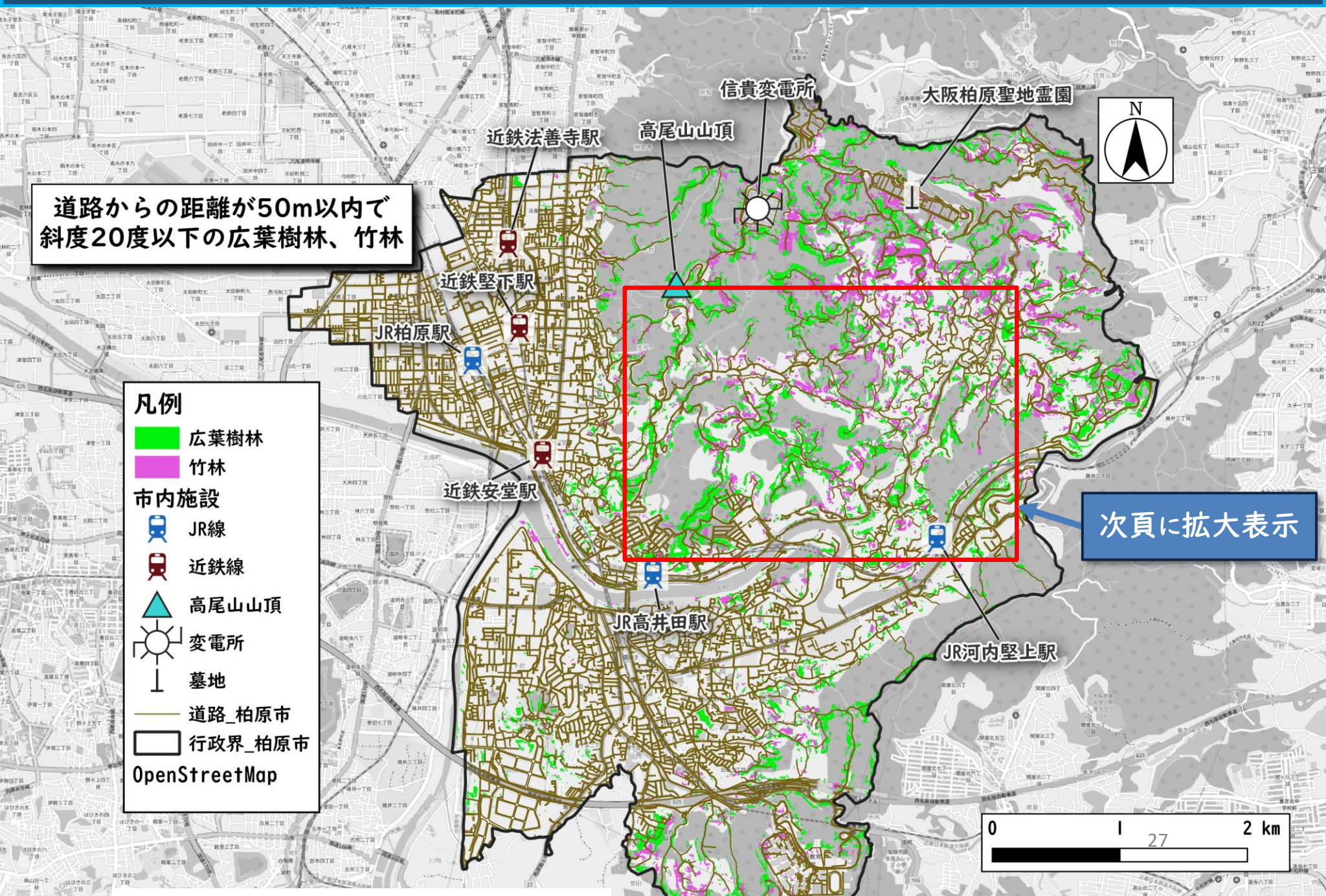
地区名	林班	大字	森林面積 (ha)	番号	個所	整備の種類
平野・大泉	1 2	平野 大泉	143	竹1	変電所西側	竹林の拡大防止と林内整理
				竹2	創造の森北側	同上
				竹3	高尾山東側	同上
				竹4	2林班48~51小班	同上
高井田	3	高井田	42	歩1	高井田〜観光農場ルート	歩道改良と浴道の森林整備
				ナ1	同上	ナラ枯れ枯損木の伐採処理
堅上西	4 7	雁多尾畑 青谷	112	竹5	堅上中学校跡辺	竹林の拡大防止と林内整理
				竹6	上徳谷谷い	竹林の拡大防止と林内整理
堅上南東	5 6	雁多尾畑 青谷 峠	84	竹7	大和川谷の斜面	竹林の拡大防止と林内整理
堅上北	8 9 10	雁多尾畑 本堂	145	人1	柏原聖地霊園東側	人工林の間伐
				竹8	本堂集落南側	竹林の拡大防止と林内整理
国分	11 12 13 14	国分兼条 国分 田辺	115	人2	11林班	人工林の間伐
				人3	12林班西	同上
				人4	12林班東	同上
				人5	13林班	同上
				人6	14林班	風倒木処理
				歩2	国分〜明神山ルート	歩道改良と浴道の森林整備
				ナ2	同上	ナラ枯れ枯損木の伐採処理
旭ヶ丘	15 16	旭ヶ丘	44	人7	国分病院南側	人工林の間伐
				歩3	国分病院〜寺山ルート	歩道改良と浴道の森林整備



地区別の整備が望ましい森林等 (2/2)



市域の森林ボランティア活動モデル区域 (森林区域外を含む)



上徳谷の様子



かつては、谷沿いに棚田、斜面には、ぶどう畑が広がっていたが、現在は、耕作放棄地が増え、竹や笹、葛が広がっている。



しかし、谷沿いを軽自動車を通れる道があり、緩傾斜の地形があり、竜田古道が通るとい説もある。また、この谷の西隣の横尾地区は、ぶどう狩り園が広がっているため、この区域の森林を整備することは、地域振興に資する可能性がある。

市域の森林ボランティア活動モデル区域【再拡大表示】（森林区域外を含む）

比較的安全に活動できる緩傾斜地で、アクセスや資材運搬に便利な沿道部50mの範囲にある「広葉樹林」と「竹林」を図示したものです。

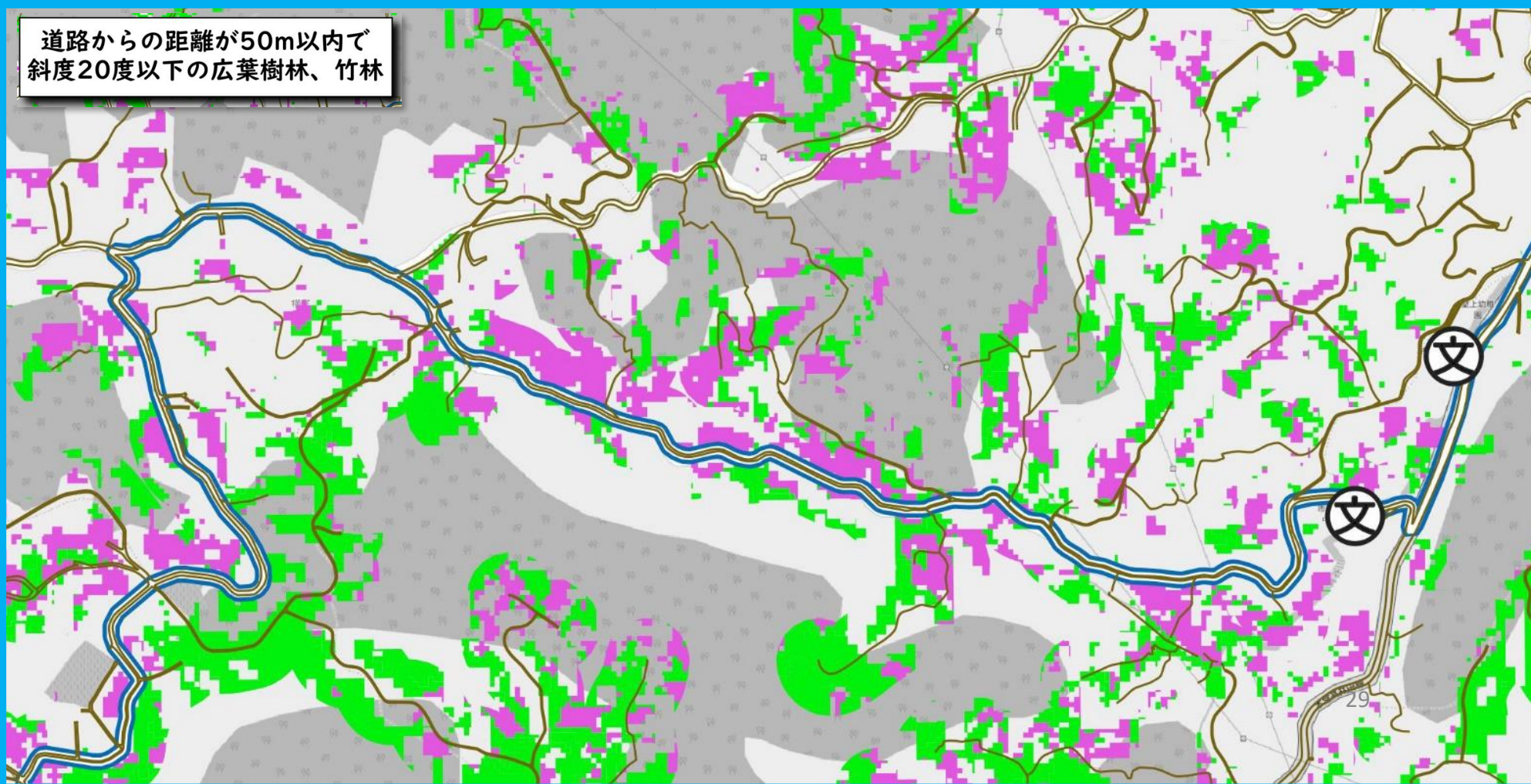
ボランティア活動の場所や、広葉樹材・竹材を確保する場所を検討する際に活用できます。

（事前に検討する際の参考図であり、現地調査や所有者との調整が不可欠です。）

凡例

- 広葉樹林
 - 竹林
 - 市内施設
 - 学校
 - 道路_柏原市
 - 高井田・横尾・雁多尾畑・三郷コース
 - 行政界_柏原市
- OpenStreetMap

道路からの距離が50m以内で
斜度20度以下の広葉樹林、竹林



重点モデル取り組みエリア(案) (森林区域外を含む)

府立環境農林水産総合研究所 令和4年度 報告書より抜粋

凡例

要整備竹林

ハイキングコース

林相図 (2018年、大阪府)

針葉樹

広葉樹

タケ

市内施設

JR線

近鉄線

高尾山山頂

変電所

墓地

学校

行政界_柏原市

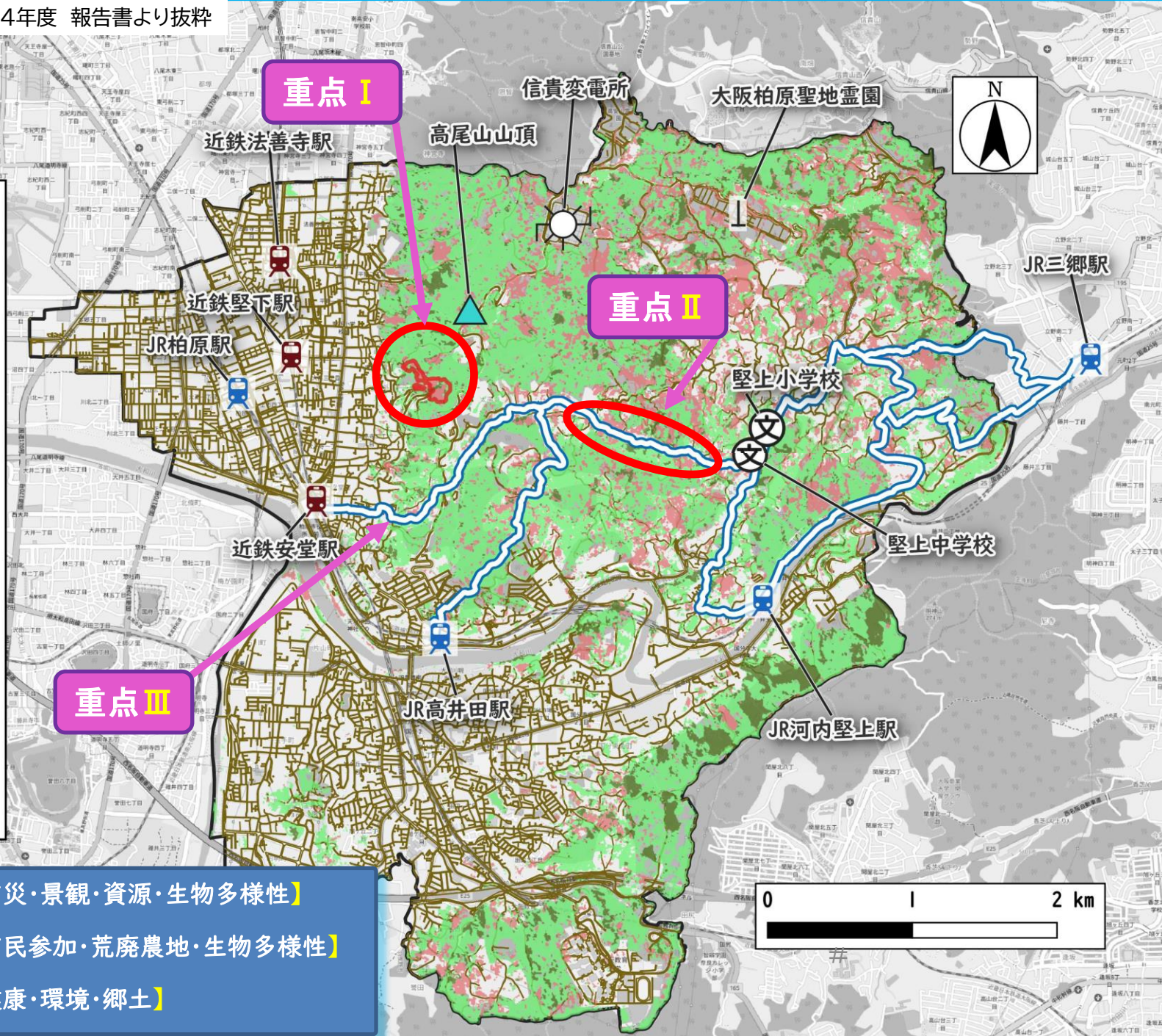
道路_柏原市

OpenStreetMap

重点Ⅰ：竹林整備【防災・景観・資源・生物多様性】

重点Ⅱ：自然再生【市民参加・荒廃農地・生物多様性】

重点Ⅲ：歩道整備【健康・環境・郷土】



6. 森林資源の循環利用の方針

持続可能な社会に向けて、伐採した木材を有効活用し、石油の消費をおさえるとともに、有効活用で得た収益をまた、森づくりに還元するサイクル「使う→植える→育てる→また使う」を持続的に回すことが求められています。



6. 森林資源の循環利用の方法例

現地で加工して活用



ベンチ、階段、土留め(等高線状に水平に並べ、雨水が拡散して流れるようにする) など

搬出して木材として利用



住宅、家具、DIY、園芸用資材など

搬出して焼いて利用



炭、竹炭(肥料や脱臭剤としても)



更に木酢液、竹酢液も利用

搬出して小割にして利用



薪

搬出して粉砕して利用



- ・チップにしてマルチング材に
- ・細かく粉砕してして肥料や飼料に
- ・ペレットにしてバイオマスエネルギーに

コナラなどの枝は、ほだ木としてシイタケを植菌

ツルや木の実は、クラフト材料に

どんぐりは、育てて、また森に戻しましょう

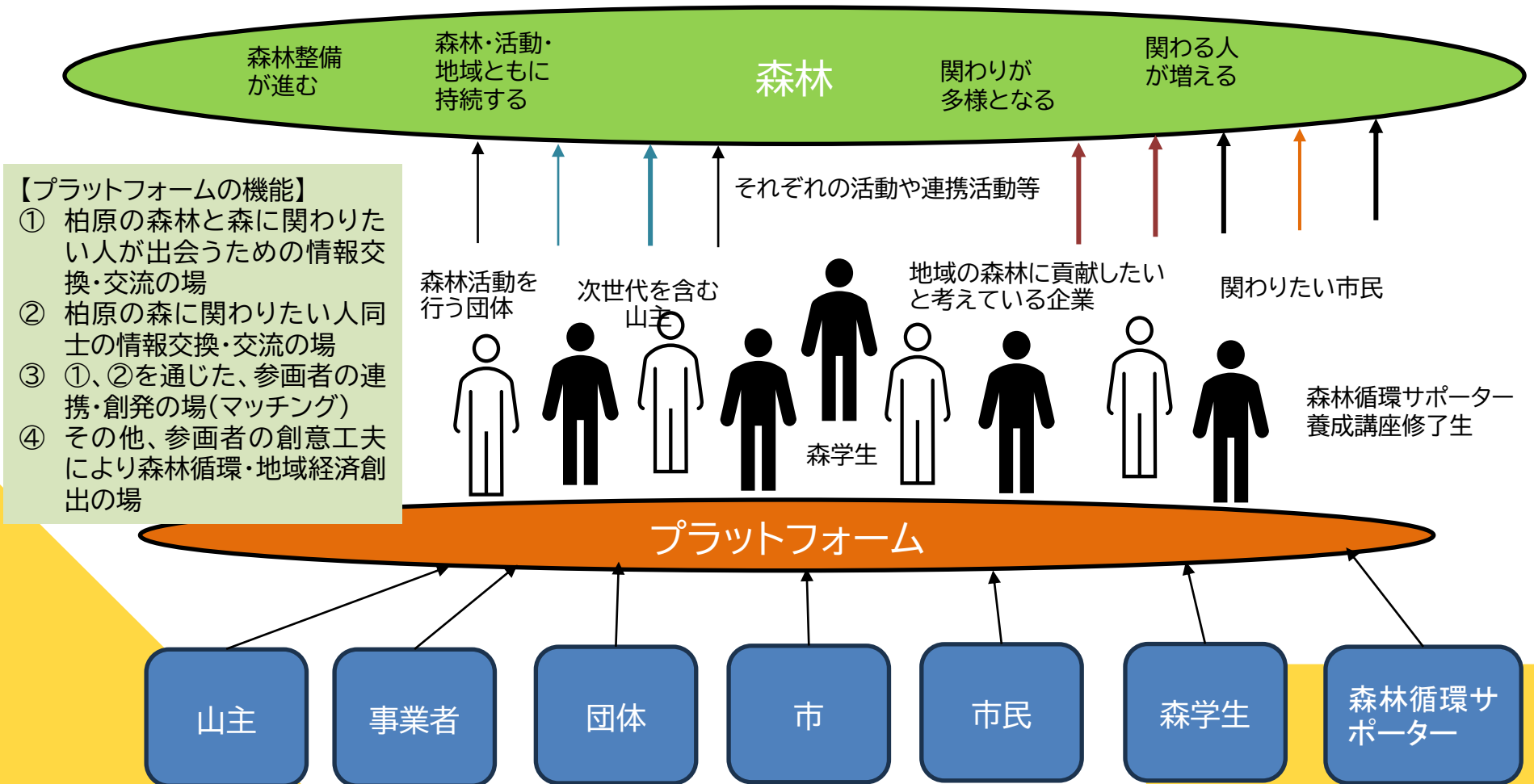
つながり編

1. プラットフォームの目的
2. プラットフォーム名
3. プラットフォームの心得



1. プラットフォームの目的

- 山主を含む森林の保全・利用、森林資源の循環に関する産学官民の有機的なネットワークによる情報の交換や交流の場を創設することにより、柏原市内の活力ある森林の造成及び森林資源の利用と循環並びに地域経済の循環を促進し、もって、快適で暮らしやすい持続可能な社会の実現に寄与することを目的とする。



2. プラットフォーム名

森・まち

もりノベース

森 + Lino + ベース の造語

Lino ハワイ語で、「光る」「輝く」「奇跡」という意味を持つ言葉です。
結びつくという意味もある。

ベース 基板

リノベ リノベーションの略。手を加えて、よくすること。修復。再生。

3. プラットフォームの心得

1. 森に関わりたいと思う人達が集まるオープンな場とする。
2. 柏原の森から、関わりを育み、ひと・資源・経済を循環させる。
3. 森を「楽しむ」心を大切にする。そして互いに認あう。
4. 森と生物の多様性を大切にする。
5. 今の森と向き合い、出来ることを考えよう。

心得にこめた想い

① 森に関わりたいと思う人達が集まるオープンな場とする。

森に関わる人、これから関わりたい人。
立場に関係なく、市民、そして学生、事業者、市、あらゆる人が
集まる場がプラットフォーム。

② 柏原の森から、関わりを育み、ひと・資源・経済を循環させる。

森は、地域の財産。
何より、森と人、人と人との関わりを育むことが森づくりにつながると考え、
ひと・資源・経済を循環させる取り組みを生み出していくことを目指す。
関わりをキーワードに取り組もう。

心得にこめた想い

③森を「楽しむ」心を大切にする。そして互いに認めあう。

何より、楽しむ。それが長続きの秘訣。
人と森との関わりは様々。主義主張も様々かも。
みんなが自由に意見交換するために互いを認め合う。

④森と生物の多様性を大切にする。

日本は、気候風土に加えて、農林業などを通じて適度に
人の手が加えられることで、豊かな環境が成立。
人だけでなく、全ての生き物の多様性を大切に。

⑤今の森と向き合い、出来ることを考えよう。

関わりやすい森、そうでない森、森の状態も様々。
どんな森でも、森林ごとの「今の状態」と向き合い、
そこで出来ることを考えよう。